

# 処理業者86社と協定締結 廃プラ埋立ゼロに向け 動き出した東京都

2008年1月に「都処分場における産廃廃プラ埋立ゼロに向けた基本方針」を策定した東京都。事業系の廃プラスチック(以下、廃プラ)の埋立量を段階的に削減し、2011年度にはその埋立量をゼロにする方針だ。この目標達成を目指し、2009年6月、東京都は廃プラリサイクル推進に賛同する処理業者86社と協定を締結。環境意識の高い処理業者と自治体とが一体となり、廃プラ埋立ゼロの推進に乗り出した。

## 事業系廃プラ排出量の 約半分を占める埋立

2009年6月26日、東京都庁で開催された「廃プラスチック類の埋立ゼロに関する協定締結式」には、廃プラリサイクルに積極的に取り組む処理業者86社の代表が集結し、東京都の施策に協力して「廃プラ埋立ゼロ」のための取り組みを行う協定を締結した。今回、締結式に集まった86社は、関東建設廃棄物協同組合や東京産業廃棄物協会、東京産業廃棄物協同組合などを通じた東京都の

呼びかけに対し、賛同した処理業者たちだ。

締結式では、東京商工会議所理事・産業政策第二部長の橋本昌道氏が「廃プラのリサイクルはここ数年進んでいるので、これからも促進に向けてバックアップしていきたい。循環型社会の構築とあわせて、地球温暖化防止のために低炭素社会の構築も急務。経済活力を保ちながら環境に配慮した社会の形成に向けて東京都や事業者の方々と一緒に努力していきたい。本日の協定を契機として、ますます3Rの取り組みが活性化

することを願っている」と語った。

東京都では2006年に「東京都廃棄物処理計画」を策定し、都内の事業所から排出される廃プラリサイクルの促進と、その埋立処分量をゼロにする目標を掲げたが、さらに2008年1月には、事業系廃プラの受け入れを段階的に削減し、2011年度に埋立ゼロを目指すことを決定した。

この背景として東京都は、都内から発生する年間約27万トン前後の廃プラが有効活用されずに埋立処分されていること、さらに、東京港内で新たな処分場の確保は極めて困難で、現在の処分場をできるだけ長く使う必要があることを挙げている。特に、年間約27万トン埋立られる廃プラは、事業系廃プラの総排出量の約半分を占めており、全国の平均埋立率8%を大幅に上回っている。

東京都環境局廃棄物対策部資源循環推進課長の谷上祐氏は、「廃プラは貴重な資源。資源化で再利用することもできますし、焼却時の熱回収で化石燃料の代替にもなります。廃プラを有効活用して、低炭素社会の構築を推進していきたい」と話す。

## 協定締結の目標は270社

近年、リサイクル技術の進展で、廃プラの効率的な資源化と熱回収が可能になったこともあり、東京都では、これま

で埋立していた廃プラはすべて再生利用か焼却で有効活用できると見込んでいる。今後もリサイクル技術を持ち、環境に配慮した処理を行う企業などと積極的に協力していく考えだ。今後も協定締結企業270社を目標に、定期的に募集していく。「参加企業を増やすためにも、“環境への意識が高い”という対外的な意思表示だけでなく、処理業者の方々のモチベーションをさらに高めるような施策を考えていきたい」と谷上氏。協定企業については一覧表を作り、PR

を図るなど、適正処理の促進を目指している。

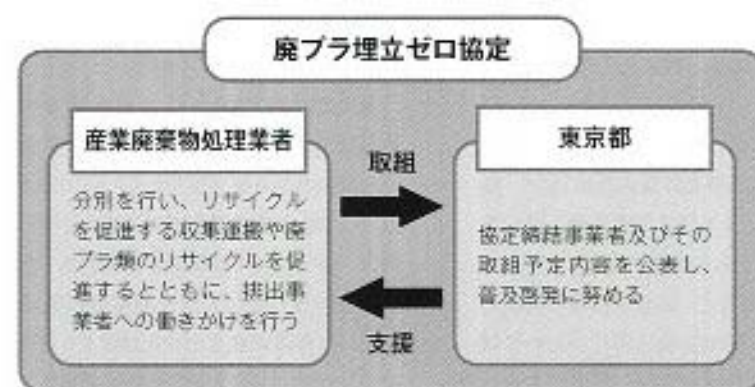
## 排出事業者の啓蒙活動を行い 協定締結企業をサポート

東京都で、埋立の割合が全国平均よりも高い理由を、谷上氏はこう話す。

「製品製造時など、産業から出る廃プラは均一素材で再生利用しやすいのですが、東京都では業務用ビルなどから出る弁当の容器など、食品残渣が付着

し、油で汚れた廃プラが比較的多いので、処理する前に洗浄などをする必要があり、手間がかかるので埋立に回ってしまう傾向があります」

これからは、「廃プラを排出する段階での分別も重要になってくる」と谷上氏。排出事業者を集めた市区町村レベルの講習会などで、排出事業者に対する廃プラリサイクルへの啓蒙も合わせて行い、処理業者の負担を減らす形で連携していく予定だ。



## プラスチック類の埋立ゼロ協定締結式



東京都環境局長・有留武司氏と、86社を代表し、協定書の締結を行う高世興業代表取締役の高橋俊英氏

## 原燃料生産・品質管理体制強化し、社運かけて埋立ゼロ目指す 燃料化と破碎洗浄能力増強し、 多彩な顧客ニーズに対応



燃料選別ラインの輸送設備

### 株式会社 総合整備

東京都を中心に首都圏で古紙、廃プラ、木くずなど多彩な廃棄物の収集運搬と中間処理を手がける総合整備は平成20年度54.6%のプラスチック・リサイクル率を平成23年度までに95%に引き上げる計画を発表した。

段階的にリサイクル率を上げていく計画に対応し、同社では今年10月に瑞穂工場に新たに高性能燃料選別ラインを増設、さらに12月には廃プラスチック破碎洗浄プラントを設置する。燃料や成形品用の原材料など、需要家

### 破碎処理・圧縮梱包・有価物の販売によるリサイクル計画

年度	処理量 ID[A]	処理後の廃プラ輸出		埋立処分 ID[C]	リサイクル率(%) ID=[B÷A×100]
		リサイクル用途 ID[B]	廃棄物発電		
平成20年度(実績)	5618	1016	2054	2548	54.6
平成21年度	6000	1000	1500	1500	75
平成22年度	7000	1200	1050	1050	85
平成23年度	9500	2000	7025	475	95

来半秋には、24時間稼働の新規中間処理施設が完成予定。既存の2工場と合わせ3工場体制となり、大幅なリサイクル率向上を目指す

のニーズに応える設備を確保する。

同社の松島修社長は「貴重な資源を有効活用し、循環型社会を推進するため、埋立ゼロ協定はすばらしい取組み。しかし、かたちだけで終わらせないためには、真剣に取組まなければなら

ない。適正な処理能力を備えた設備、採算ラインに乗るだけの荷を集める営業力、そして品質管理のノウハウが必要であり、生半可な気持ちではできない。わが社は社運をかけて本気で取組む」と、計画に向けた抱負を語った。

TEL:03-5347-2910 http://www.sougisebi.com/



「廃プラ埋立ゼロ、オー！」と、その意気込みを示す86社の代表者たち